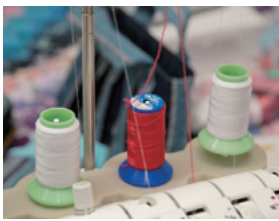




材料は長じゅばんや半衿です。夏の絹の素材のものも。帯状の布を、糸で生地を包み込むようにかがる巻き縫いでつなぎ、縫い目を表に見せます。糸ですきまなくかがった巻き縫いの部分が、本物のポジャギの縫い代の部分に似た仕上がりです。壁に掛けたり、間仕切りにしたり、使い方はお好みで。



巻き縫いのときは、上ルーバー糸にウーリー糸を使うことで、よりきれいに縫えます。ここでは赤糸がウーリー糸です。



必要な大きさにしたトップの周囲を裁ちそろえます。アイロンで整え、同じ大きさの裏布と外表に合わせて縁布でくるみます。



皆さんが使いやすくていいと話していた、布くず受け箱。カットした布くずを受け止めます。

ロックミシンを 使ってみませんか？

第2回 ポジャギ風 クロス

撮影／山本和正

Quilt ami

パッチワーク教室の皆さんにロックミシンを体験していただく企画の第2弾。今回は東京都小平市と立川市でミシンキルトを教えている坂本はるみさんの教室に伺いました。洋裁で布を縫い合わせながら布端の始末もするロックミシンの特徴を生かして坂本さんが提案したのは、薄手の着物地を使ったポジャギ風クロスです。

「夏に涼しいかと思つたの」

韓国の本物のポジャギとは違う作りですが、仕上がりはポジャギのような趣。集まった生徒の皆さんは、それぞれの好みの布で製作に取り組みました。

ミシンキルトが大好きという坂本はるみさん。作品の材料の着物地はおうちにあったものです。「おばあちゃんの引き出しから出してきました。ほどんどは大変なので、必要なところだけ切って使うようにしています。」



◆ポジャギ風クロスの作り方◆

巻き縫いでピースワーク



「布を4〜5cm幅にカットし、ひたすらつないでいきます」と坂本さん。



2枚を外表に合わせて巻き縫いを行います。まち針で留めなくてOK。「張りのある布と柔らかい布を組み合わせると、縫いやすくなります」。2枚合わせのものや何枚かつないだものを好みの大きさにカットして、またつないでいきます。このとき向きを変えると変化がつかます。





坂本さんをはじめ、皆さん、ミシンキルトのベテランです。一人一人違った味わいのボジャギ風クロスが出来上がりました。教室に飾られたキルトは、すべて坂本さんがミシンで作ったものです。



教室には男性キルターも。キルト用ミシンのエクシードを試し縫いました。「スタートボタンの位置が使いやすいですね」。



2種類のデニム地の表と裏を使って作ったキッチンミトン。縫い代を表に出し、縁かがり縫いの縫い目をアクセントに。

帯状に裁ったデニム地に段染め糸で縁かがり縫いをして、外表に縫い合わせました。裏を見せて変化を楽しみます。



バッグの口と持ち手を重ねた、厚い部分もミシンでスムーズに縫えます。「エクシードは力持ちですね」。

ロックミシン「シュルル」
MO-1000ML
2本針 2・3・4本糸
17万5000円+税



15種類の縫い目の糸調子や送り調節などの設定を液晶画面で確認できます。縁かがり縫いから巻き縫いに切り替えるときは、画面の表示にしたがって調節ダイヤルなどを合わせればOK。



穴に糸を差し込んでエアボタンを押せば、電動モーターから送られる強い風のため、簡単に糸が通ります。

Exceed
Quilt Special

HZL-F600JP
エクシード キルトスペシャル
オープン価格



エクシードは工業用ミシンの技術、機能を取り入れたコンピューターミシンのシリーズ。キルトスペシャルはキルトを美しく縫い上げる機能が充実しています。

★商品に関する
お問い合わせは
こちらへ。

JUKI
JUKI販売株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1
お客様相談室 フリーダイヤル 0120-677-601
http://www.juki.co.jp/household_ja/